

# 令和元年度 ミュージアムを活用した美術教育実践事業

## 目的

・郷土の作家や大分に縁のある美術作品を鑑賞することで、郷土の文化の豊かさ、本物のよさを感じ取り、美術作品に対する多様な見方、コミュニケーション能力や表現力、豊かな感性を育成する。

・児童が主体的・対話的に取り組む、鑑賞と表現を関連付けた授業の充実を目指し、そのモデル事業として3年間実施する。

## I 県立美術館での鑑賞活動の様子

令和元年度は4年生を中心に、県内14市町の23校を県立美術館に招待し、鑑賞活動を実施しました。

美術館では、それぞれが自分なりの見方で、思い思いの感想を自由に伝え合いました。また、「作品のどのような表現からそう感じるのか」についても考える場をもたせ、鑑賞の後は班や全体で振り返りをしました。美術館での活動の様子を紹介します。

### Step1

美術館に着いたら、ガイドスタッフの方とのご対面。はじめの会で鑑賞の三つのめあてと美術館でのマナーを確認しました。

【めあて】 展覧会を楽しもう！

【楽しむためのステキなヒント】

- ①からだを使っていろんな見方を試そう。
- ②自分なりの感じ方を大切にしよう。
- ③作品から感じたことを友だちと伝え合おう。

〔美術館での三つの約束〕

- ①作品にさわらない
- ②走らない
- ③大声を出さない



### Step2

展示室では6人程度の班で、ガイドさんと一緒に鑑賞しました。

座って見上げて「あれ？」手でわくを作っただけで「あっ！」作品のまねをしてみてください「むふふ」いろんな声が聞こえてきました。また、感じたことを班で自由に話し、感じ方の違いを楽しみました。

### Step3

展示室から帰ってきて、まずは同じ班のみんなと振り返り。「あの作品が気に入った！」「私はあの作品！」「おうちの人に素敵なお土産話ができただろうか？

みんなの前でお土産話をお披露目し、「そうそう」「そうだった！」「こんなかんじ」身振り手振りで教えてくれる姿がとても素敵でした。

楽しい時間はあっという間でした。帰るときにはガイドさんとハイタッチ。また来てね！



# 鑑賞活動後の子どもたちの感想

## 心にのこった作品の紹介文を書こう

ささのふね わけは、きれいで川に流したら「スーッ」ときれいに糸のように流れそうだったからです。

1番心に残った作品は、花びんに入った花の絵です。そのとき感じたことは、色を重ねたりしている工夫を、絵の中から見つけました。

なんだかステキだった。さみしいのが心にのこったから。だれもいないしずかさがさみしいように感じた。

心にのこる作品は、黄色い花の絵です。黄色のところが丸く少しとび出していました。わけは、こまかくかいていてきれいだからです。葉っぱも細かい葉っぱと少しふとい葉っぱもありました。すごくていねいにかいていると思いました。

ふくろうのさくひん わけは、前から見るとふくろうで、うしろから見るとあざらしだったからすごいと思った。

作品はいろいろなみかたができて、かごなどもうえからみたりよこからみたり、下からみたり、ほうこうによって作品のみかたがちがうことにきずきました。

わたしが心にのこったのはあのプールみたいなおふろみたいなさくひんです。さわってみて、みずみたいなかんじからおもしろいなと思ったです。あとひんやりしました。

福田平八郎さんの水はあんなかたちにみえいけどぼくも水を見てその形に見えるかためしたいです。水唱でらめのようにしているのがおもしろかった。

私の心にのこった作品は、竹の絵です。わけは、本当の竹にはなさそうな色も使っていたし、形や太さもちがったからです。たけのこのえがよかったです。

ぼくがきにいったのは、ぬまににた絵です。なぜなら、いろが同じように見えても、ほうこうや見るむきをかえると、色が変わったり、動いたりしているように見えるのが、おもしろくて、ぼくはこの絵のことを書きました。

わたしは、さざなみが好きです。わけは、耳をすませば音が耳こえてきそうだから。

細い月(三日月)を見るときに移動して見ると、雲にかくれたり月がくっきり見えたりするのがとても不思議に思いました。

## II 美術館での鑑賞後の授業実践の報告

小学校学習指導要領(平成29年告示) 図画工作科の「指導計画の作成と内容の取扱い」では、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにすること」と示されています。また、鑑賞の指導に当たっては、「地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること」が示されています。

各学校では、美術館で体験した「色々な見方をする」こと「自分なりの見方や感じ方を持つ」こと、「感じたことを友だちと交流し、感じ方の違いを楽しむ」ことを図画工作の授業でも取り入れ、表現力を高める指導の工夫が求められます。

今年度の参加校も、美術館での鑑賞の活動を受けて、学校で図画工作科の授業実践に取り組み、児童の豊かな感性の育成を目指しました。参加した学校の実践の一部を紹介します。

### 実践例1 他教科の学びと関連させた実践

### 竹田市立竹田小学校

#### 【題材名】「竹田市「版画と連詩」

総合的な学習の時間に、竹田市を表すのに適した漢字一字を話し合い、その漢字をテーマとしステレン版画を制作する班を決定する。その後、図工の時間にステレン版画を制作し、それと並行して、国語で連詩の学習を行う。全員の版画が完成した後、総合的な学習の時間にて、班のメンバーが作った版画を鑑賞し合い、テーマとした漢字一字を題名とした連詩を作る。できた連詩と版画を発表し合い、感想を伝え合う。

#### 【実践の流れ】

- (1) 事前学習
- (2) 大分県立美術館にて鑑賞の学習
- (3) 版画のテーマと班を決定する。→ 図工で版画制作、国語で連詩の学習を行う。
- (4) 版画を鑑賞し合い、連詩を作る。
- (5) 連詩と版画を紹介し合い、感想を伝え合う。

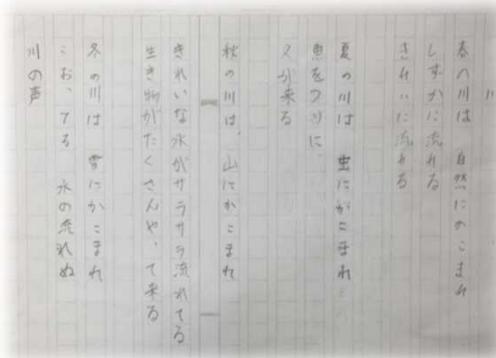


・連詩の感想は、テーマの「竹」から上手く連想できたと思います。

・連詩は難しかったけど、〇〇くんが、上手に最後の連でまとめてくれたので良かったです。

・班の人の作品は、季節ごとの作品があったり、色をいっぱい使っていたりして良かったです。

・他の班の連詩は、季節が変わっていくように書いている工夫がすごいと思いました。



複数の教科の特質を活かして子どもたちの資質・能力が育っています。

【題材名】 「別府温泉を表現しよう」

【実践の流れ】

- (1) 事前学習
  - ・大分県の偉人の作品や他の展示物の鑑賞方法やルールについて学ぼう。
- (2) 大分県立美術館にて鑑賞の学習
  - ・大分県の偉人の作品を鑑賞し、新しい表現方法や見方に出会おう。
  - ・作品のよさや面白さを見つけて、自分の表現の引き出しを増やそう。
- (3) 鑑賞して学んだことを振り返る学習
  - ・大分県の偉人の作品を鑑賞して学んだ新しい表現方法や見方を友だちに紹介しよう。
  - ・別府温泉を知らせるために、福田平八郎の水墨画から学ぼう。(筆の太さ・墨の濃淡の工夫)
- (4) 自分の感覚で水墨画を描く学習
  - ・別府温泉のよさを知らせるために、工夫して水墨画を描こう。



・高山辰雄や福田平八郎など大分県に素晴らしい画家がいることを知ることができました。私も真似して描いてみたいです。

・堀田温泉の露天風呂を描く時、見た人が入ってみたいと思うように墨の濃さを工夫しました。自分の思い通りに描くことは難しかったけど、絵を描くことが楽しくなりました。

・筆と墨で描くことは難しかったけど、先生や友だちが描き方を教えてくれたので、集中して上手く描けるようになりました。水墨画を描くのが楽しかったです。

町の自慢がテーマ。  
地域に対する愛着の心も育っています。



### 実践例3 美術館での活動を生かした実践

由布市立谷小学校

#### 【題材名】 『光ギャラリー』をしようかしよう

大分県立美術館において、絵画の見方(正面から、上から、横から、下から、全部、一部)について、見方を変えるとその絵の受け取り方が違ってくるということを学習した。その手法を生かして、本校に飾られている6点の絵画作品を鑑賞し、その中で紹介したい作品について、作品から見えてくるもの、感じられること、自分なりに読み取れるメッセージをメモし、紹介する活動を行った。美術館での鑑賞から時間が経っての活動であったが、作品を見るときの自分の位置、姿勢、手を丸めたり枠を作ったりして、様々な角度から鑑賞する姿が自然とみられていた。また、メモの中に見方を変えた時の見えるものを対比している記述や、作品から伝わる物語を自分なりに想像している記述がみられた。

#### 【実践の流れ】

- (1) 事前学習～美術館訪問にむけての意識作り
- (2) 大分県立美術館にて鑑賞
- (3) 谷小学校の『光ギャラリー』の鑑賞活動と紹介

『うっとりしてしまう』『リラックスできそう』など、自分なりに感じたことを表現できていた。



身近な学校にある作品のよさや美しさをあらためて見つけることができます。

### 実践例4 美術館での活動とICTをかした実践

佐伯市立宇目緑豊小学校

#### 【題材名】 「秋の植物の色と形で遊ぼう アンディ・ゴールズワージーに挑戦」

#### 【実践の流れ】

- (1) 事前学習
- (2) 大分県立美術館にて鑑賞の学習  
美術館で作品の鑑賞を行い、様々な角度で作品を味わう楽しさを体験した。
- (3) 「北川ダム湖上中流域交流事業(秋季)の活動内で造形遊びを実施。
- (4) 4年生の作品(写真)の鑑賞会



学校の外にも表現の場がつけれる「地域のよさ」を活かした取組です。

【4年】学校と藤河内でランドアートを作成し、自然の中で表現する楽しさを感じた。

次々に発想が広がる子どもたちの姿が印象的だった。

タイトルを付ける活動は効果的だった。

【5年】前年度に経験した活動を、今年は4年生が取り組み、作成した作品を鑑賞した。

自分たちの活動と比較しながら、良さを発見し認め合う姿が印象的だった。

1 題材 「友だちの作品のいいところを見つけよう」(1時間)

2 目標

ステンシル版画で作った友だちのポスターを鑑賞し、よくできていると思うところを見つけて発表することができる。

3 実践の流れ

(1)事前学習

・グランツ竹田での「みんなの美術館」を体験し、作品鑑賞の楽しさを知ることができた。

(2)大分県立美術館にて鑑賞の学習

・写実的な作品や抽象的な作品などたくさんの作品を見ることによって、様々な表現の仕方があることを理解することができた。

・同じ作品を見ても、人によって感じ方が違うことや、好きな作品も違うことを理解することができた。

(3)事後授業実践

・鑑賞の観点として、ポスターの構成・色・文字の効果などについて考えさせた。

・作成の途中で一度作品を見合うことで、友だちの作品のよさを自分の作品に取り入れることができた。

・カボスは本当は丸のままかごに入れると思うけど、切ったところを表現したからわかりやすくなったと思う。



・文字の大きさ・太さ・色が工夫されていて、何を伝えたいかがよくわかると思う。

・石垣の色がたくさんあって、少し苔がついているような感じがよく出ていていいと思う。

みる、感じる、話す、みる・・・を通して、作品に命が吹き込まれていくようです。

# Ⅲ ミュージアムを活用した美術教育実践事業 県立美術館での鑑賞活動を活用した学習の流れ

## ○ 美術館での鑑賞講座

(引率教員のための鑑賞講座)

鑑賞のポイントを美術館の下見も兼ねて体験。

※先生は児童になったつもりで鑑賞。(2時間程度)

## 1 学校での事前学習

「ミュージアムツアーのしおり」を使って、児童美術館での過ごし方とめあてを確認し、意欲付けをする。

- ①色々な見方をする
- ②感じる
- ③感じたことを話す

## 2 美術館での鑑賞体験

### ① 出合いの会

美術館に着いたら、研修室でサポートスタッフ(ガイド)の方との対面。レクチャーで鑑賞のめあてと、美術館での約束・注意事項を確認する。

### ② 鑑賞

6人程度の班で、ガイドの方と共に鑑賞。展示室の美術作品だけでなく、美術館の建物や施設の面白さも体験。(2時間程度)

ガイドは作品の解説よりも、児童一人一人の感じ方の違いを引き出し、交流させることに重点をおいて引率をする。児童は作品に近づいたり離れたったり、下から見たり横から見たりするなど、色々な見方を体験することで、見え方の変化を楽しむ。感じたことを友だちやガイドと自由に交流しながら鑑賞をする。

### ③ 振り返りの会

鑑賞後、印象に残ったこと等をアンケート用紙に記入。印象に残った作品や好きな作品については「どうしてその作品なのか、作品のどのところが印象に残ったのか」という視点を大切に振り返らせる。

※どの学校でも、積極的に発言し、楽しく振り返りができている。

## 3 鑑賞後の授業実践(例)

美術館での体験、児童の見方や感じ方の変化を捉え、その後の児童の主体的な学びを目指すように授業改善に生かす。

- 例) ・学校で美術作品の鑑賞をする。 ・表現と鑑賞を関連付けた授業をする。
- ・学校美術館として自分たちが作った作品展をする。
  - ・地域の芸術家を講師として招き、指導を受けたり作家の方と交流をしたりする。
  - ・学校内の美術作品や近くの美術館などを活用して鑑賞活動を行う。